

| | | | | | | | |
|---|---|-----------------|------------------------|----------------|--|------|-------|
| 授業科目名 <英訳> | ILASセミナー：来るべき民主主義と平和のかたち ILAS Seminar :The shapes of democracy and peace to come | | | 担当者所属 職名・氏名 | 地球環境学舎 准教授 岡田 直紀 人文科学研究所 准教授 藤原 辰史 人文科学研究所 准教授 石井 美保 | | |
| 群 | 少人数群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | ゼミナール |
| 開講年度・ 開講期 | 2018・前期 | 受講定員 (1回生定員) | 15 (15) 人 | 配当学年 | 1 回生 | 対象学生 | 全学向 |
| 曜時限 | 水5 | 教室 | 総合研究4号館2階共通4講義室 (本部構内) | | | 使用言語 | 日本語 |
| キーワード | カウンターデモクラシー / ヘイトスピーチ / 全体主義 / 紛争と難民 / 積極的平和主義 | | | | | | |
| [授業の概要・目的] | | | | | | | |
| <p>テーマ：いま、戦争を考える</p> <p>20世紀は戦争による死者が歴史上最も多かった100年間であった。21世紀に入って、国家間の全面的な紛争は減少したかに見えるが、民族や宗教の対立あるいは政治経済的利害に基づく地域的な紛争は依然として後を絶たない。戦争は、なぜ起こるのか。戦争は、いかにして続くのか。戦争の歴史を見つめ直す作業は、戦争がこれほど身近にありながら、遠い過去のように感じられるこの国でこそ、必須であるといえよう。</p> <p>以上のような問題意識に基づき、この授業では、戦争とはどのようなものか、戦争を止めるにはどのような政治や思想がありうるのかについて受講者とともに考える。具体的な事例の解説をもとに、問題解決策を受講者が自分で考える思考能力を養うことを目的とする。</p> | | | | | | | |
| [到達目標] | | | | | | | |
| 戦争と平和に関連して、これからの社会が向き合わなければならない諸問題について理解し、その解決のために、複眼的でグローバルな視点に基づいて考える習慣を身につけることを目標とする。授業では解決策を提示して解説をするのではなく、あくまで受講者が自力で考えることを促す。 | | | | | | | |
| [授業計画と内容] | | | | | | | |
| <p>第1回 イン트로ダクション 授業で取り上げる問題について概説し、参考文献の紹介、授業の進め方について説明を行う。</p> <p>第2回～第11回は以下のテーマについての講義を行う。必要に応じて外部から専門家を招請して話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争と植民地 (2回) ・戦争と政治 (2回) ・戦争と差別 (2回) ・戦争の記憶 (2回) ・戦争を止める運動と組織の展開などについて (2回) <p>第12回～第14回 受講者を5名程度のグループに分け、各グループ内で上記のテーマについてディスカッションを行う。その内容をまとめてそれぞれのグループが発表を行い、それを受けて全体討論を行う。</p> | | | | | | | |
| [履修要件] | | | | | | | |
| 特になし | | | | | | | |
| ILASセミナー：来るべき民主主義と平和のかたち(2)へ続く | | | | | | | |

ILASセミナー : 来るべき民主主義と平和のかたち(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業での議論参加と毎回の小レポートにもとづいて評価する。詳しくは授業中に説明する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

授業のテーマについてさらに学びたい受講者には担当教員が随時指示する。

[授業外学習(予習・復習)等]

国内外の出来事について報道されるニュースに常に接しておく。授業の内容に関連して関心をもった出来事があれば、次の授業においてそれを質問・紹介する。

[その他(オフィスアワー等)]

社会に対するアンテナを日常的に張り巡らして様々なことに好奇心を発揮する態度と、与えられた知識を鵜呑みにするのではなく、常に批判的に問い返す姿勢を受講者には求めたい。